

## ありのままの自分

疎外されるのが怖くて、  
自分を抑え込み、  
偽りながら生活する。  
個性を認め、  
ありのままですら暮らせるように、  
性的少数者について考えてみませんか。



性的少数者は、世間から「おかしい人、気持ち悪い人」と変な目で見られる事を恐れ、カミングアウトできないでいます。それだけでなく、知られることによって友人の態度が変わり疎遠になったり、職場を追われたりすることになり

### 悩み

性的少数者とは同性を好きになる人、心と体の性が一致しない人などのことです。それぞれの人たちが指す言葉の頭文字を使ってLGBTとも呼ばれます。国内では7・6%、およそ13人に1人の割合で性的少数者が存在していると言われています。この数字は皆さんの身近にもいることを表しています。しかし、実際の知り合いにいたりなど、自分の身近で知っているといる人は少ないのではないのでしょうか。

### 性的少数者とは

**男**性は女性を、女性は男性を好きにならなければならぬ。そんな性に関する固定概念によって苦しむ人たちがいます。これらの人たちは一般的に「性的少数者」と呼ばれています。

### 個々の意識

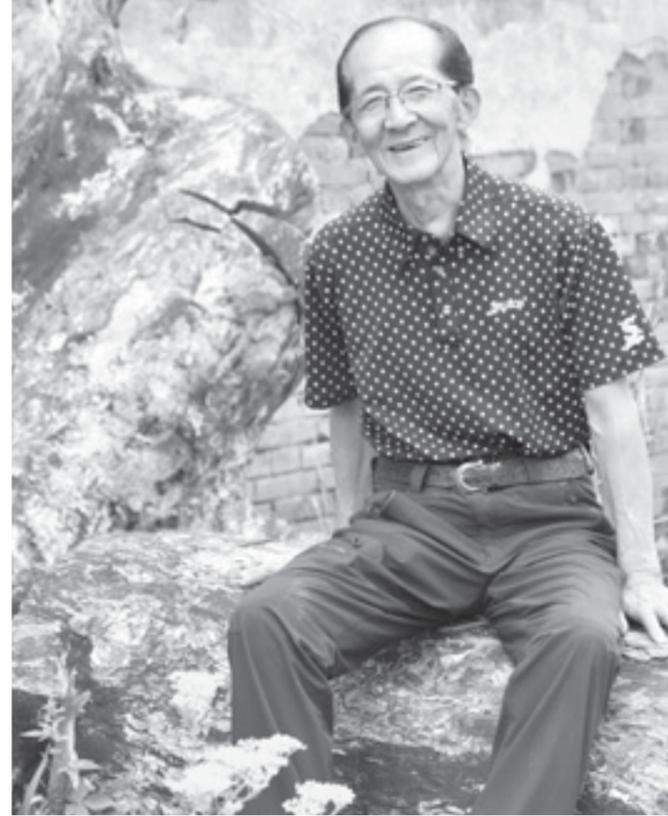
そんな中、同性カップルを公的に「パートナー」と認める自治体も出てきました。これは多様な姿を認める社会への大きな一歩です。しかし、公的機関が認めただけではより良い社会にはつながりません。社会全体の理解が広がらなければ意味がありません。偏見や差別がなくれば、本当の自分を隠しながら生活している人もありのままですら暮らすことができます。自分らしく生きられる社会。それは一人ひとりが偏見にとらわれず、個性を認める社会です。個々の意識の変化によってすべての人が笑って過ごせる豊かな社会は生まれるのではないのでしょうか。



**シ** ャッターが下りた鬼石の商店街。人がおらず寂しかった。そんなまちなかに活気を取り戻したいと「かなな秋のアート祭り」をNPOと立ち上げた堀口昌宏さん。今では市内外から若い力が集まり、祭りを盛り上げている。何もないまち。よく言われるが果たしてそうなのか。まちでたまにたま外国人を見かけた。「これだ！」。まちに滞在しているアートレジデンシーのメンバーだった。外国人はまちに住んでいるが地域との交流はなく距離感があった。

「なんとか皆と交流を持つてほしい。毎日のようにメンバーを連れ出しては地域の人に会ってもらった。「言葉もわからないし」と外国人に不慣れな人たちには戸惑いもあった。根気強く続けた今では両者は仲良くなり、帰国時には涙を流して別れを惜しむ。「自分は何もやっていない。交流の流れを作っただけ」と照れくさそうに笑う。今では移住者も増え、若い人たちが楽しそうに輪を広げている。「まちには自然や人など素材はたくさんある。あとはどう生かしていくかだけ」。堀口さんの挑戦はまだ始まったばかり。

### 人のつながりをつくる



### 地域おこしの立役者

ほりぐち まさひろ  
**堀口 昌宏さん**(浄法寺)

### Profile

1939年浄法寺生まれ。NPOきぬやの会など、地元団体と手を組み、さまざまな形でまちをよくする活動に参画。秋のアート祭りを手掛け今年で3年目。

welcome to library

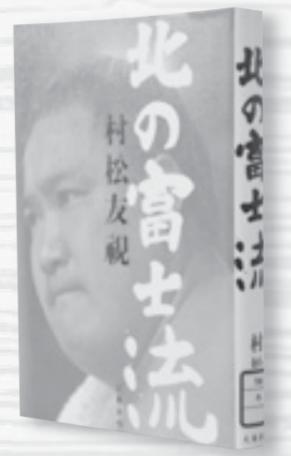
## 本との出会い

図書館司書がセレクトした新刊情報

開館時間 午前9時～午後8時(土・日曜日、祝日は午後5時まで)  
休館日 月曜日  
問い合わせ 藤岡市立図書館 ☎21669

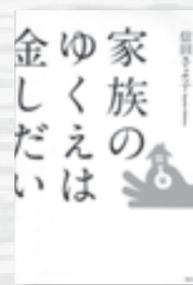
※大活字本とは  
小さな文字が読みにくい人のために、普通の図書より大きい文字で書かれている本です。

### 北の富士流



著者▷村松友視  
この男を知らずして大相撲を語るな。波乱万丈の半生をすべて記す。

### 家族のゆくえは金しだい



著者▷信田さよ子  
「愛と絆」だけでは乗りきれない。リアルな事例から打開策を紹介する。

### 院長の恋



著者▷佐藤愛子  
人望ある52歳の病院長が陥った恋の病。文字が読みやすい大活字本※